こゝと定め左右に分て家来音声を極く高く
どゝ高笑ひ叫びすして切掛て打通く
家臣諸士集り左右本口より拝見せんと騒ぎと
揚げ来れば城中にも喊声を合せ長槍弓鉄砲を対
かけ打つかけて寄せ来る敵を撃ちこゝる太刀長
刀の閃い秋の稲穂の風に靡くが如く敵味方の机を組
んで落ち首を取られ取らるもいつ或は詰て突
落さるゝ中に川組に利道へ死なもあるて深
手の疵に苦しむ中に味方の元仕高手
形首二つ取て太刀の切先に刺さし今日の一番頸の高
名と假名宣名名乗て安住敦見年たゝらんや
城中にて打ける又元慶中三郎左衛門左衛
揚げて名乗けは田村麻呂利仁より武蔵国の住人
長井の斎藤別当実盛まで十代其孫金月の住人
斎藤三郎左衛門盛利といふ者と我と思ふ者は組んで
指違をせよとて切て廻て如き首揚げけるを見
て外様衆梅干し組武蔵武なと高名をしけり山武
と組と寄れば指違をせば指違五郎左衛門景政と寄て指違